

# 図書館情報学橘会会報 第8号(通号14号)

2009年9月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

## 素晴らしき先輩たちの心意気を繋いでいきたい 2

図書館情報学橘会会長 森 茜  
[図短別 昭和40]

### 来日外国人辞典を作った図書館員

私が東京学芸大学の図書館で働いていた頃(1984年頃)、休みの日になると、日本全国を墓参りに出かけていた図書館員がいた。外国にまでは行かないのだから戦没者慰霊でないことは確かだった。ある休み明けの日、彼は、「昨日、フォックスさん(高名な日本文化研究者)を多摩霊園に案内したんだ。『この霊園には怖い幽霊が出るんだ。どんな幽霊か知ってるか?』と聞いたら、気持ち悪そうに『知らない』と言うので、『化け猫が出るんだ』と恐ろしそうに言ってやった。そしたら、奴さん、怖がってしまった。」と愉快そうに笑った。なにしろ、“たま”霊園なんだから、と、猫が狐をたぶらかした話を心から楽しんでいた。

彼の名前は武内 博。図書館職員養成所の昭和36年卒業だ。

彼の墓参りの目的は、明治期に日本の近代化のために日本政府が招いた外国人(いわゆる“お雇い外国人”)の足跡を実地にたどることだった。1983年に最初の「来日西洋人名事典」を著してから(日外アソシエーツ発行、紀伊国屋書店発売)、版を重ね、1995年に収録人物も増やし、改訂されている。700頁に及ぶ大部の著書には、幕末から大正までに来日して活躍した1303人の外国人の事跡が収録されている。今や、近代日本の研究上必須の参考図書になっている、巻末の全国墓碑・記念碑所在一覧を眺めると、妙に艶かしい。

その頃、学芸大学に隣接する東京農工大の図書館員が、ある日突然、東京郊外の日野市の市立図書館長に任命され、新しい公共図書館の活動をグングン推し進め、全国の公共図書館の牽引車になっているという話が、半ば伝説化していた。

1987年、私は一橋大学図書館に異動になった。

### 16万都市の助役になった図書館員

赴任すると、一橋大学では、“砂川さんのご主人が日野市の教育次長になった”という噂で持ちきりだった。砂川さんのご主人とは、砂川雄一氏のことだ。図書館職員養成所、昭和28年卒業だ。

伝説の人とは、砂川雄一氏のことだ。

当時、東京首都圏は、美濃部都知事を筆頭に、革新的な首長たちが次々に誕生し、近郊都市は、さながら“地域”の時代を迎えていた。その“地域”のキーワードとなったのが“公共図書館”だった。つまり、従来、知識の倉庫として固定化されていた図書館像を、図書館自身が地域市民の中に入って行ってサービスをするという、能動型の図書館に転換させたのだ。

この図書館理念は、瞬く間に全国に波及し、公共図書館の一時代を画するまでに至った。砂川雄一氏は、この実践的指導者の第一人者と言っても過言ではなかった。図書館員が、行政職高級ポストの教育次長になったという情報は、閉塞しがちな図書館界に新鮮な歓迎の風をもたらしていた。

1989年、砂川雄一氏が日野市助役になったというニュースが入って来た。人口約16万人(当時)の助役に図書館員になったというのだ。“図書館こそ、地域の中核”を地で行った感、強烈であった。砂川雄一氏の奥さん、砂川淑子さんも図書館職員養成所、昭和28年卒だ。大学図書館における女性管理職の草分け的存在だ。『大学図書館研究』の潇洒な表紙デザインで名を残している。

この原稿を書いているとき、石井敦氏(図書館職員養成所、昭和27年卒業)の訃報が飛び込んできた。“図書館こそ、地域の中核”運動の理論的支柱だった図書館学研究者だ。図書館の一時代の終焉を感じずにはいられない。

# 筑波大学図書館情報専門学群の進路状況と進路指導

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科講師 大庭一郎

[図情大 平成 2, 図情大院 平成 4]

平成14(2002)年10月、筑波大学と図書館情報大学が統合し、図書館情報専門学群と大学院図書館情報メディア研究科が設置されました。そして、平成19(2007)年4月、筑波大学の全学的な学群・学類の改組によって、図書館情報専門学群は、情報学群 知識情報・図書館学類になりました。その結果、平成21年度は、知識情報・図書館学類に1～3年次生が在学し、図書館情報専門学群には4年次生が在学しています。

私は、平成16(2004)年4月から現在まで、図書館情報専門学群、知識情報・図書館学類、図書館情報メディア研究科の進路指導関連委員会(グループ)に所属し、公務員・図書館系の進路指導を担当しています。そこで、本稿では、図書館情報専門学群の進路状況と進路指導の体制をご紹介します。

図書館情報専門学群の卒業生の主な進路は、次の5種類に分類できます。

- ①情報を生み出す、調査する職業(シンクタンク、広告代理店、映画配給、出版社、等)
- ②システムを開発する、提案する職業(IT企業、電機メーカー、通信会社、印刷会社、インターネット関連企業、等)
- ③サービスを人に提供する職業(法人職員(国立大学・学校・医療)、サービス業、公務員、銀行、等)
- ④情報を人に提供する職業(図書館、書店、等)
- ⑤大学院への進学(図書館情報メディア研究科、他大学大学院、等)

平成21(2009)年3月の卒業生・修了生の進路状況は、表1の通りです。この統計は、筑波大学の全学の進路区分に従って作成されています。図書館の就職者は、国立大学図書館は独法等、私立大学図書館や企業資料室は企業、公共図書館は公務員、司書教諭は教員、というように、個別にカウントされます。そこで、「公務員・図書館・学校等」という進路区分で再集計すると、38人が正規職

員として採用されています。

情報学群 知識情報・図書館学類、図書館情報専門学群、図書館情報メディア研究科では、筑波大学の就職課が実施する就職支援とは別に、図書館情報等支援室所属の事務職員のきめ細かいサポートを受けながら、独自の進路指導を展開しています。平成21年度は、進路指導のために、学類学生委員会(就職支援グループ)と専攻学生支援委員会(専攻進路指導グループ)を置き、企業系、公務員・図書館系の担当教員によって、情報収集、学生指導を行なっています。さらに、学群生(学類生)の進路相談に対応するために、独自に就職相談員(週2日、就職等のコンサルタント企業と契約)を設けて、学生の個別相談に当たっています。

企業志望の学生のために、例年9月末から10月上旬にかけて、学群(学類)として、進路指導会、合同会社説明会、面接・グループディスカッション講座等を実施しています。昨年の合同会社説明会には、本学群と長年ご縁のある21社に参加していただきました。毎年、この説明会を経て、就職が決まる学生がいます。

公務員・図書館志望の学生は、通常、公務員採用試験(教養試験)に合格しなければなりません。そこで、平成16(2004)年2月から、公務員採用試験受験者のために、独自の教養試験対策を開始しました。現在では、2年次の9月から4年次の6月にかけて、合計44回の教養模擬試験を作成し、隔週で実施しています。さらに、公務員採用試験の受験段階に応じて、志望理由書の執筆、機関訪問の準備、2次試験の面接に向けた助言、等を行なっています。

企業や図書館の採用情報がある場合は、筑波大学図書館情報等支援室の学生支援担当まで、ご連絡いただけますと幸いです(TEL: 029-859-1130, 1131; FAX: 029-859-1453)。どうぞよろしくお願い申し上げます。

表1. 筑波大学図書館情報専門学群, 大学院図書館情報メディア研究科(博士前期課程)の進路状況(2009年4月1日現在)

学群・学類 研究科	卒業者 修了者	就職者	就職者の内訳				進学者	職務復 帰/帰国	研究生 等/留学	その他
			企業	教員	独法等	公務員				
図書館情報専門学群	194 <i>121</i>	141 <i>99</i>	109 <i>74</i>	2 <i>1</i>	7 <i>5</i>	23 <i>19</i>	22 <i>10</i>	—	5 <i>3</i>	26 <i>9</i>
図書館情報メディア 研究科(博士前期)	42 <i>20</i>	23 <i>13</i>	17 <i>8</i>	2 <i>1</i>	1 <i>1</i>	3 <i>3</i>	7 <i>2</i>	6 <i>0</i>	1 <i>0</i>	5 <i>5</i>

斜体数字は、女子を内数で示す。その他には、資格・採用試験等準備他を含む。

## ☆この人にときめき☆

今回の「この人にときめき」は、『Project Shizuku ～次世代図書館情報システム～』の開発者である、小野永貴さん・常川真央さんに寄稿頂きました。お二人は、現在、筑波大学図書館情報メディア研究科に在籍している学生さんです。



小野永貴さん



常川真央さん

### 学生の力で図書館界を活性化したい —次世代図書館システム提案への挑戦、学生表彰へ—

筑波大学図書館情報メディア研究科 博士前期課程1年  
小野永貴、常川真央

「図書館の新しい時代を作ろう」当時学群2年の2人が某居酒屋で誓ってから早3年。この2人が学生表彰を受賞することになるうとは、当時誰もが予想していなかった。

“誓い”をきっかけに始まったのが、学生による次世代図書館情報システム開発プロジェクト「Project Shizuku」。新しい図書館情報システムの提案により図書館界の活性化を目指し、利用者コミュニティ支援機能や書影画像による直感的インタフェースを持つ、新しいシステムの開発を始めた。情報処理推進機構（IPA）主催の未踏ソフトウェア創造事業「未踏ユース」に採択され開発を行い、事業期間7ヶ月で開発したプロトタイプシステムの成果が認められ、「準スーパークリエイター」の称号を頂いた。

未踏終了後は、プロトタイプシステムを用いてコンセプト提案に努め、図書館の貸出情報を活用した新しい試みとして注目を集める。図書館総合展等での数々の講演、研究会発表やベンダーの方々との交流、他の図書館プロジェクトとのコラボ等、積極的に業界に発

信していった結果、貸出情報活用や新しいサービス展開を考える議論の火付け役の一端を担えたと思う。

この度、これらの活動を認めて頂き「筑波大学学生表彰」を頂いた。偶然にも我々は共にAC入試で合格した2人。AC入試とは筑波大学独特の自己推薦型入試で、大学統合に伴い図書館情報専門学群でも2005年度から新設されたものだ。我々はその第1回入試で入学し、在学中様々な活動に挑戦した結果、“図情AC一期生”として卒業時にも図書館情報専門学群に功績を残せたことは、大変光栄に思う。

現在は、筑波大学の創業支援プロジェクトに採択され、事業化準備を進めている。これまで蓄積したコミュニティや画像を活かした情報発信システムの技術を、学術機関・図書館向けサービスとして提供し、学術情報発信の現場に貢献したいと考えている。

最後に、今回受賞に至るまでご支援下さった先生方、およびプロジェクトに協力してくれた友人達に、深く感謝を申し上げます。

☆☆☆

### 平成20年度図書館情報学海外研修助成

橘会では、筑波大学の「図書館情報学振興会」を継承し、学生の海外研修への助成などを目的とする「筑波大学支援図書館情報学振興基金」を設置しています。図書館情報メディア研究科、図書館情報専門学群の公募および審査にもとづいて、平成20年度は、次の3名の図書館情報学海外研修助成を実施しました。

以下、研修者（敬称略）、所属・学年、研修期間、目的地、目的。

・千 錫烈 博士後期課程1年 H21.2.3-17 The London Library, The British Library, Manchester

Central Library, Portsmouth Central Library（イギリス ロンドン、マンチェスター、ポーツマス）19世紀の公共図書館アーカイブスの収集。

・真田 彩加 図書館情報専門学群（以下、学群）4年 H20.9.22-30 テキサス大学図書館、オースチン公立図書館（アメリカ合衆国 テキサス州 オースチン）オースチン公立図書館の制度的な人種隔離撤廃に関わる文献調査。

・安藤 はるか 学群4年 H20.8.27-9.8 ヘルシンキ市立図書館、トゥルク中央図書館（フィンランド ヘルシンキ）公共図書館の自動化の現状と利用状況に関する現地調査。

# 正史か風説か一黒岩先生に触発されて

国立国会図書館 坂本博  
[図短別 昭和48]

## 校章 vs. 庭木

会報の第5号(通号11号、2007.11)で、わが橘会の謂われに関して、図書館短期大学校庭の橘の木の有無が問題になっていると知りました。

私は図書館短期大学の昭和47年別科入学ですが、入学式の式辞で、当時の太田和彦学長が短大の橘の校章に言及され、実際に校庭に橘が生えているわけではない、そのような現実はどうだという話ではなく、橘が象徴する文化とか常緑性とかに意味があるのだとおっしゃったような記憶があります。現実主義の私は、哲学の先生らしいおっしゃりようとはいえ、今からでもその辺に植えとけば今後は言い訳をしなくすむだろうにと思ったものでした。

雛飾りの右近の橘しか知見はないので、実物を見たいというか、その実を味わいたいという気持もありました。ただ植物図鑑によると、近畿以西に稀に自生とありますので、空っ風の吹く世田谷下馬の、それも国の施設で無事に育ったものかどうか。これも、昔の記憶ですから勘違いの可能性もあり、黒岩先生同様、ほかの方々の記憶をお尋ねしたいところです。皆様いかがでしょう。

黒岩先生も言及されているように、橘が文化勲章の意匠になっていることの影響は大きかったのではないかと思います。

## 梅 vs. 芸草

ところで黒岩先生は、同じ記事で「芸草」にも言及されています。私もこの機会に芸草と国立国会図書館の職員記事について問題を提起させていただきます。黒岩先生の言われた風説が正史になりかねないことにも関係します。また、我々の大先輩で、長く橘会の会長を務められた弥吉光長先生にもかかわる話です。

私が1979年に国立国会図書館に採用されたときの新人研修で、当時の酒井悌副館長から記事についてお話がありました。記事の中央に「書」の字があるので、書道をおやりになるのですかと聞かれたりするが、これはただ「書」があるのではなく囲いの中に書物があるわけで図書館を意味している、国構えに「書」で図書館と読む漢字を作った図書館学者がいたのだ、というお話でした。そして周りの花びらは、桜ではなく梅である、桜は風に吹かれて散るところが美しい、だから警察や自衛隊の象徴には良

いかかもしれないが、図書館にはそぐわないのだ、というお話でした。桜でない理由は納得するにしても、だから梅というのも論理の飛躍があるような気がして、珍しく新人研修の話で未だに記憶に残っていることの一つです。

酒井悌さんの前に副館長をやっていた鈴木平八郎さんが、自分は記事の意匠は梅だと思っていたが、あるとき弥吉さんからあれは芸草なのだといわれたと、「びぶろす」(1981年)に書いておられます。国立国会図書館整理部長を務められ、図書館界の重鎮であられた弥吉先生が言われ、元副館長が館の機関誌に寄稿されたとなれば、軽視することはできません。芸草は、黒岩先生もお書きになっているように、書物と関係があります。

この芸草は、日本最初の公開図書館といわれる石上宅嗣の芸亭にも関係があると言われていますが、芸亭時代の芸草は松風草のことだったようです。ところが松風草の花弁数は4枚なので、5弁の記事の意匠にはなり得ず、ここではこれ以上は言及しません。

橘も夏みかんも、どちらも黄色い実がなり白い5弁の花が咲きますが、春日キャンパスの中庭にあるのは本当に橘なんでしょうか？

\*編集部で、筑波大学に確認したところ本物だそうです。写真は筑波大学春日キャンパスに植栽されている橘



## 橘会の新しいホームページ

本年度、橘会ホームページを新しくします。今回のリニューアルの主目的は、橘会会員専用の交流の場を設けることにあります。会員の皆さまは日本全国に散らばっており、なかなか連絡が取れない状況であると思われます。そこで、同期会や同好会など会員の皆さまの交流をお手伝いするため、インターネットを活用した会員交流の場を橘会ホームページに設けることにいたしました。

新ホームページの構成案は図1に示してあります。現在の橘会ホームページは、誰でも全ての情報にアクセスできますが、新しいホームページでは、1) 会員のみアクセスできるページと、2) 誰でもアクセスできるページ、の2種類を設けます。誰でもアクセスできるページには、現在のホームページの情報を移行します。会員のみアクセスできるページには、「会員掲示板」、「写真館」、「同期会等専用ページ」などを設ける予定です。

「会員掲示板」は、同期会や同好会などの開催情報、開催された同期会や同好会の報告などを掲載。「写真館」には、同期会・同好会・会員にまつわる写真を掲載。これらは会員の皆さまからの情報提供に基づいて行います。「同期会等専用ページ」は同期会等のホームページにあたるものです。専用ページを希望する同期会等に対して提供します。同期会等は独自のホームページを作成して様々な情報を掲載することにより、同期会交流の足がかりにすることができます。

ホームページのリニューアルは2009年度内を予定しています。この件についてご希望がございましたら、ご意見をお寄せ頂ければ幸いです。橘会ホームページをより良いものとするため、会員の皆さまのご協力をお願いいたします。

(橘会理事 柿沼澄男 [図短別 昭和54]、  
市村省二 [図情大 昭和60])

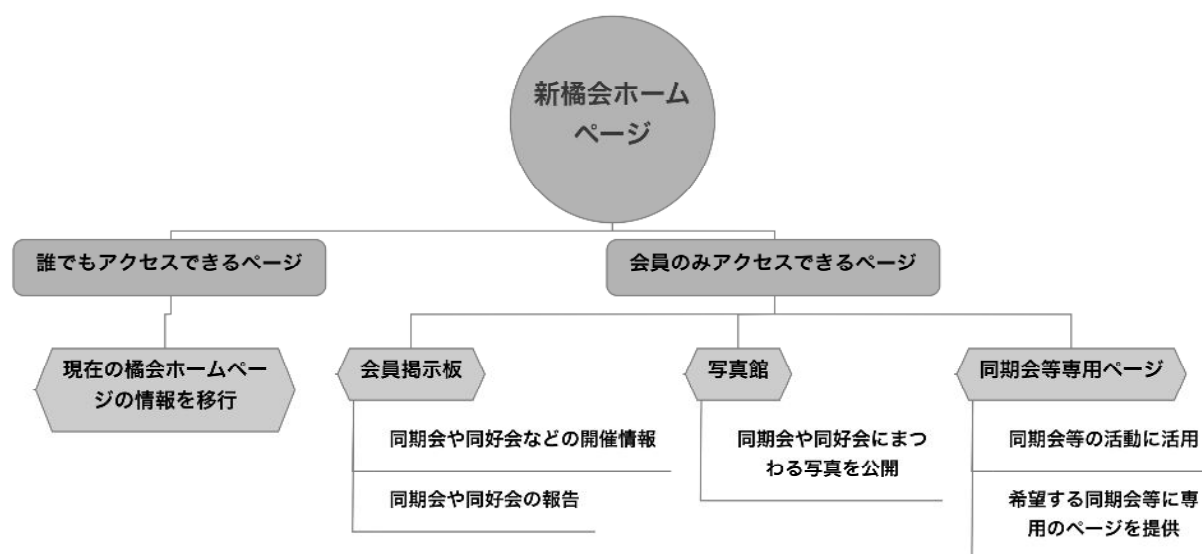


図1 新ホームページの構成案

## 第6回総会の記録

〈日時〉平成21年7月18日（土）  
 〈会場〉茗溪会館 5階会議室  
 〈出席者〉理事・監事を含め、約30名

〈総会次第〉

- (1) 開会挨拶（森茜会長）
- (2) 来賓挨拶（堀内昭三茗溪会理事、中山伸一筑波大学情報メディア研究科長、溝上智恵子筑波大学知識情報・図書館学類長、植松貞夫筑波大学附属図書館長）
- (3) 議長選出と議事録署名人の指名  
 森会長が本総会議長に選出され、議事録署名人として、戸部、早川、川本の3氏が指名された。
- (4) 議事
  - 1) 平成20年度事業報告及び決算報告  
 大場理事から平成20年度の橘会事業報告及び茂出木理事から平成20年度決算報告、神田監事から監査報告があり、了承された。
  - 2) 平成21年度事業計画案及び予算案  
 大場理事から平成21年度事業計画案及び茂出木理事から平成21年度予算案の提案があり、了承された。
  - 3) 「大橘会」の開催について  
 森会長から、平成21年度の事業計画として筑波大学のホームカミングデー（10月11日）に合わせて、筑波大学で全卒業生交流会「大橘会」を開催したい旨の提案があり、審議の結果、了承された。
  - 4) 今後の運営について  
 森会長から筑波大学図書館情報専門学

群の組織変更に対応した会則改正を行う必要があるため、今後理事会で検討し、次回総会に提案したい旨の発言があり、了承された。

柿沼理事から、Web上での会員交流用システムを導入し、会員同士の自発的な交流を支援していきたい旨の提案があり、了承された。

（橘会理事 大場高志 [図短別 昭和 51]）



総会風景

☆☆☆

### 平成20年度決算報告

一般会計				特別会計			
収入		支出		収入		支出	
前年度繰越	8,464,306	支出	2,412,010	前年度繰越	3,936,854	支出	838,199
収入	2,156,138	次年度繰越	8,208,434	収入	4,846	次年度繰越	3,103,501
合計	10,620,444	合計	10,620,444	合計	3,941,700	合計	3,941,700

## 平成 20 年度事業報告

- (1) 筑波大学行事への参加  
平成 21 年 3 月 25 日、会長が平成 20 年度学位記授与式（卒業式）及び懇親会に出席した。
- (2) 第 5 回総会の開催  
茗溪会支部「図書館情報学橘会」としての第 5 回総会を平成 20 年 7 月 12 日（土）に開催した。
- (3) 公開講演会の開催  
平成 20 年度公開講演会を平成 20 年 7 月 12 日の総会終了後に開催し、多くの参加者を得た。  
演題：「コンテンツの時代－知識はわれらを豊かにする－」  
講師：長尾真（国立国会図書館長）
- (4) 会報 7 号の発行  
「図書館情報学橘会会報 第 7 号（通号 13 号）を 2009 年 3 月に発行した。
- (5) 同窓会ホームページの充実  
・ホームページのレンタルサーバを切り替え、通信のセキュリティ機能強化などを図った。  
・ホームページアドレスは次の通り。<http://www.tachibana-kai.com/>
- (6) 卒業生の勧誘  
平成 20 年度卒業生・修了生に、学位記授与式での入会案内・会報配布などの PR・勧誘を行った。
- (7) 茗溪会本部行事参加  
平成 20 年 5 月 29 日の茗溪会総会に代議員として高鷲元会長、森会長の 2 名が出席した。  
平成 20 年 7 月 12 日開催の公開講演会について茗溪会公益事業に申請し承認された。
- (8) 理事会運営体制の強化  
卒業生名簿管理、会費請求・管理、広報活動の充実等を図るため、担当理事の交代を含め、業務の見直しを進め、運営体制を強化した。
- (9) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の活動  
筑波大学図書館情報学海外研修助成、図書館情報学実習補助、卒業式祝賀会への支援を行った。



## 会員現勢

### 1. 会員数

1,673 名（平成 21 年 8 月 1 日現在）

### 2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文図教習所	1
文図講習所	78
国図附養	3
文図養成所	94
文図養成 A	176
文図養成 B	67

文図養成 1 B	3
文図養成 2 B	11
図短付養成	23
図短特養課	127
図短図書館	323
図短文献情	81
図大図情専	12
図大図情	536
図大図情修	18
図大博前期	10
図大博後期	1
筑図	101
筑博図情修士	3
筑博図後期	3
筑博図前期	2
合計	1,673

### 3. 新規加入

※以下、HP 掲載では省略。

#### 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日 1 - 2

E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行： 2009 年 9 月 1 日